

首都圏の一層のレジリエンス力向上に向けて

竹内 英（文部科学省研究開発局 地震・防災研究課長）

文部科学省研究開発局地震・防災研究課長の竹内 英氏は冒頭のあいさつで、「まず 6 月 18 日に大阪府北部を震源とする地震における犠牲者に対して哀悼の意を表するとともに、被災した方々に対してもお見舞いを申し上げます」と、被災地への追悼の言葉を述べました。

そのうえで「震度 6 弱以上の地震は日本中どこでも発生する可能性がある。多くの企業と GDP が東京に集中する状況を踏まえると、ますます首都圏で大地震が発生した場合のレジリエンス力の向上が重要になる」と指摘しました。

「今年度からは、内閣府の官民研究開発投資の増大を目的とした PRISM プロジェクトも開始され、防災はその領域の 1 つ。本プロジェクトもこの枠組みを活用しつつ、首都圏の一層のレジリエンス力向上のために取り組んで欲しい」と、首都圏レジリエンスプロジェクトおよびにデ活シンポジウムへの期待を述べました。

